



そうだったのか！ がん専門医による抗がん剤のお話

第3回

【抗がん剤は何でしんどのいの？】

今回、従来用いられてきた抗がん剤についてお話をします。確かに現代においても『従来用いられていた抗がん剤』はがん治療のなかでも依然大きな役割を担っています。なぜ従来の抗がん剤は副作用が強くなってしまうのでしょうか？唐突ですが、皆さん『抗生物質』という言葉は聞いたことがありますよね？そう、細菌をやっつける薬です。抗生物質は抗がん剤みたいに強い副作用が出ることはまれですよ。少し難しい話になりますが、抗生物質のターゲットは細菌という『原核生物』に分類される生き物です。そして私たちのような高等生物は『真核生物』に分類されます。真核生物とは真核細胞で構成された生き物です。一方で原核生物とは原核細胞でできた生き物です。真核細胞は原核細胞が持たない細胞核を持っているなど、構造が随分と複雑に出来ています。

このように原核生物と真核生物では細胞単位で大きく構成が異なります。そのため、抗生物質は真核細胞には作用せず、原核細胞にだけ作用する部分をターゲットに攻撃してやればよいのです。では抗がん剤はどうでしょう？抗がん剤がターゲットにするのは当然がんです。『がん細胞』です。では『がん細胞』は何に由来するのでしょうか？実はがん細胞は自分自身の細胞がおかしくなってしまったものが、がん細胞なのです！こうなると大変です。なにせがん細胞は、元はといえば自分自身の細胞です。ばい菌をやっつけてくれる免疫細胞も、体に入ってきた細菌は当然味方の細胞と見分けて攻撃することが可能です。しかしながら、免疫細胞はがん細胞を敵として見分けることが難しいことも多いのです。元はといえば自分自身の細胞ですから！

ここに抗がん剤創薬の難しさがあります。がん細胞と正常細胞の違いは免疫細胞も見分けられないほどわずかでしかないのです。抗生物質のようにはいきません。したがって従来の抗がん剤はがん細胞もやっつけるけど、似通っている自分自身の細胞も大きなダメージを受けてしまうのです。その結果がおう吐や抜け毛、けん怠感や衰弱といった強い副作用につながるわけですね。ではどのようにこの副作用に対応したらよいか？次回に続きます。



中学生が職場体験学習を行いました

10月3日から5日まで仁多中学校・横田中学校の生徒が奥出雲病院で職場体験学習を行いました。
病院内で様々な職種の方が働いていることを知り、驚きと共に新たな気付きがあったことと思います。

実際に使用している医療機器などの仕組みに触れたり、専門技術職員からの説明に熱心に耳を傾けたりしている姿が印象的でした。

多くの職種の方が働く中で、連携や協力することが大切であること、患者さんの気持ちに寄り添い、一人一人に合った医療を提供すること、知識や技術を正しく安全に生かしていくことを間近で見て体験できたのではないのでしょうか。

この職場体験学習を通して医療に関心を持ち、将来の奥出雲町の医療提供の担い手となってくれることを期待しています。



島根メディカルラリーに参加

10月14日に島根メディカルラリーが島根県消防学校で開催されました。

メディカルラリーとは、医師・看護師・救急救命士・救助隊員が一つのチームとなり、力を合わせて様々な災害現場等に挑み、救助活動技術を競い合う大会です。

今回は島根県内のみならず、遠くは大阪府や徳島県など県外からの参加もあり、全14チームで競われました。

当院からは佐々木陽平医師、吉川幸子看護師が、奥出雲消防署職員と共に参加し、好成績を収めることができました。

このような活動などを通じて救急隊との連携を深め、一人でも多くの命が助けられるように、技術の維持向上に努めていきたいと思っています。

